

会長挨拶

小木曾清三

日本も戦後七十年を迎えた色々な方々の色々な思いがあると思います。特に三月十日の東京大空襲では十万人の死者が出ました。その内墨田区では六万四千三百二十二人の尊い命が失われました。実に

六割強の人々が墨田区で亡くなつたことになります。人命だけでなく焼夷弾によつて焼け野原となり、焼けなかつたところが極わずかという悲惨な所でもあります。あらゆる文化財産や遺跡なども失われてしましました。過去の史物は残りません。

西山幸一郎様を偲ぶ

「押絵羽子板 西山鴻月」

在原 マサ

謹んでいと高きに在します西山様をお偲び申し上げます。

西山様とは去る昭和38年当時の墨田区第一庁舎で史談会設立準備会でお目にかかつたのが、初めてでございました。その頃、既に東京都知事賞を受賞されるなど墨田区伝統工芸保存会役員としても熱心に活躍中であられたと記憶しております。

戦前お若い頃から千住の面相師・倉田勝吉氏のもとで技術の修得修業をなされました。

せんでしたが区民の心の中に大空襲の後も墨田区の良いところ（景観や人的交流、環境整備）を汲み入れられ七十年経つた今墨田区があるわけです。復興には沢山の人が関わってくれたことでしょう。ただ、仲間を誘い、楽しみたいと思います。同時に新規会員も募集しております。そこでよくお願いいたします。

教育基本法ができて七十年。教育方法は変わつても先人達の教えは変わらぬはずです。七十歳以上の方々にはますます山の人が関わってくれたことでしょう。ただ、仲間を誘い、楽しみたいと思います。同時に新規会員も募集しております。そこでよくお願いいたします。

昭和14年に19歳で独立されたとのことです。ですが、平成26年までの長期間、羽子板の押絵・面相制作の第一人者として生涯を全うされたのです。常に前向きに、展示会等開催され国内外はもとより海外にも発進されるなど目を見張るよう躍ぶりでした。

すみだ史談会の研修会講師として区内の伝統工芸の職人の方々を次々と紹介いただきその素晴らしい技術・作品などを見聞させていただき感心感動したものです。鴻月様ご自身も講師として羽子板の話・歌舞伎の深い造詣・押絵の実技などをお示しくだしました。常に優しい

国技館に本年度はスポーツを当て勉強していきたいと存じます。個人の歴史観点からめて共通の歴史観をもつて伝承したいと思います。ぜひご参加をいります。同時に新規会員も募集しております。

独特の語り口は印象深く心に残つております。墨田区名誉区民・東京都名誉区民として顕彰されましたことは史談会の誇りであります。篠子夫人・ご子息和宏様の熱いサポート力に改めて敬服いたします。新時代には今を原点として新しい何かがスタートしていることですが、江戸時代からの押絵羽子板は、伝統工芸として比類無きものであります。

どうぞこれからもますます輝き続けますよう史談会一同心から応援いたします。



電柱のある風景

すみだ史談会会長 小木曾 清三



都電が走っていた錦糸町駅前



押上駅前交差点

今すみだの景観が劇的に変わっています。大きな道路では、電柱を取り払い電線を地下に移しています。写真によつて見ていただきたいと思います。

現在の錦糸町駅南口京葉道路から

亀戸方向です。
電線がないことで、街の景観がすっかり変わってしまいます。道路に電信柱があり電線がはりめぐらされていた時代があつたことを忘れないものです。

高度成長時代には、縦横無尽に電線が架かっていました。押上の駅前にはトロリーバスが走つていて、その電線もあります。

架かっていました。押上の駅前にはトロリーバスが走つていて、その電線もあります。

亀戸方向です。

現在の錦糸町駅南口京葉道路から

亀戸方向です。
電線がないことで、街の景観がすっかり変わってしまいます。道路に電信柱があり電線がはりめぐらされていた時代があつたことを忘れないものです。

高度成長時代には、縦横無尽に電線が架かっていました。押上の駅前にはトロリーバスが走つていて、その電線もあります。

あたたかく——人へ・街へ
Heart to Heart

縁からつながる地域の輪
Face to Face

お客様の一番身近な存在に
Smile to Smile

 東京東信用金庫



タワービュー通り

一般社団法人すみだ観光協会は、皆様の「入会をお待ちしています。一般社団法人墨田区観光協会は、観光事業の振興を通じて墨田区全体の経済発展と活性化を図り、区民生活の向上に寄与することを目的としています。この目的に賛同の上、「入会を御願いいたします。」

※※会員と会員資格※※

入会金 →なし

会 費 →1口につき年額2000円

正会員 →総会における議決権がある会員（個人2口以上、団体はなるべく5口以上）でお願いします。）

賛助会員→総会における議決権のない会員（1口）

* * 正会員特典 * *

- ◎会員企業・団体・店舗の「案内や宣伝活動について」相談させて頂きます。
- ◎「希望により当協会のウェブサイトに会員情報を掲載させていただきます。
- ◎当協会のガイドブックや観光マップおよびウエブサイトへのバナー広告等の掲載料が優遇されます。
- ◎当協会が行うイベント、観光事業への「案内や特別」招待・賞品の会員割引など（賛助会員含む）

* * お問い合わせ * *

一般社団法人墨田区観光協会

〒130-0001 墨田区吾妻橋3-4-5

03-5608-6951 FAX03-5608-7130

玉ノ井の地名由来

と歴史（2）

全国の玉ノ井の地名

高木 新太郎

二・地名辞典等による
玉ノ井・玉井関連地名

全国の玉ノ井はどのくらいあるか。図表1と図表2が果である。角川書店の地名辞典をベースに、他の辞典をベースに充したものであり、実際には補辞典で補充したものであるが、もう少しあるかもしれない。日本全国で約28ヶ所がある。近畿と東北が多いため、地域区分にもよる。近畿は約三分の一）。地域区分を見ると、東北が多くの所、中部は3ヶ所、関東は3ヶ所、中国は3ヶ所、東海は3ヶ所、山梨は3ヶ所、九州は3ヶ所、近畿は6ヶ所である。

図表1 玉ノ井・玉井等の関連地名（1）

地名		所在地		現在所在地などの略述
一連番号等	県名	郡・市名等		
1	玉の井町	愛知	名古屋市	1939年～現在の町名
2	玉ノ井	青森	北津軽郡 中里町	尾別一つの集落として現所在
3	玉ノ井	山形	西村上郡 朝日町	1889年～現在の大字名(1954年より)
4	玉ノ井	愛知	葉栗郡 木曽川町	1906年～現在の大字名
5	玉ノ井	京都	綾喜郡 井手町	玉井庄(たまいのしょう)の説明
6	玉ノ井	京都	船井郡 八木町	1889年～現在の大字名
7	玉井	埼玉	熊谷市	1889年～現在の大字名
8	玉井	福井	坂井郡 三国町	1889年～1983年の町名
9	玉井	福島	安達郡 大玉村	1955年～現在の大玉村の大字名
10	玉井町	岐阜	岐阜市 玉井町	1909年～現在の町名
11	玉井町	大阪	豊中市 玉井町	1942年～現在の町名
12	玉井町	石川	金沢市	1869年～現在の町名
13	玉ノ井	東京	もと寺島村大字玉井	説明のみ
14	玉ノ井	山梨	もと山梨郡 玉井郷	「たまのいごう」の説明
15	玉井	岡山	もと児島郡の村	1889年～1998年の自治体名(玉野市)
16	玉井村	岡山	赤磐郡 瀬戸町	1889年～1955年の自治体名(瀬戸町)
17	玉井新田	大阪	東大阪市	1910年～1967年は玉井という大字名
18	玉井	大分	北海部郡 佐賀関町	戦国期の地名
19	玉井町	福井	福井市 玉井町	1874年～1958年の福井市の町名
20	玉井	滋賀	草津市	平安末期の地名
21	玉の井	滋賀	坂田郡 山東町	玉井もある。平安末期の地名
22	玉井里	京都	京都市 山科区	条理の地名で「たまいがり」と読む
23	玉置川	奈良	吉野郡 十津川村	「たまいがわ」と読む。 1889年～現在の大字名

(注) ここでは現在(文献出版の時点)から見て、年代に力点を置いて略述した。1889年以後が中心となる。またその後の市町村の合併等で変化している。

(出典) 竹内理三、他編『角川 日本地名大辞典』。出版年は県によって異なる。

図表2 玉ノ井・玉井等の関連地名（2）

地名		所在地		現在所在地などの略述
一連番号等	県名	郡・市名等		
24	玉井	香川	綾歌町富熊	清泉が湧く所があった
25	玉ノ井	宮城	栗駒町中野玉ノ井	
26	玉ノ井山	宮城	栗駒中野玉ノ井山	
27	玉井	青森	森田村 字玉井	
28	玉井	京都	和束町 小字玉井	
29	玉井庄	台湾	台南州 新北郡	1920年に庄が合併してきた。

(出典) 24番は『日本歴史地名大系』(平凡社)。25～28番は『現代日本地名よみかた大辞典』(日外アソシエーツ)。29番は戦前の『日本地名大辞典 第四巻』(日本書房)。

日本橋七福神巡り



すみだ史談会一年の活動報告

講師

墨田区文化財調査員 松島 茂氏

平成二十六年度

五月十八日(日) 第二十六回定期総会

生涯学習センター研修室1

事業報告・決算報告、事業計画・予算案等 提案通り議決された。

記念講演 『鬼平・長谷川平蔵』

七つのナゾを追う
～北斎ゆかりの地を歩く～

講師

すみだ史談会会长 小木曾 清三氏

素戔鳴尊を描いた牛島神社の北斎の画

を鑑賞、三圍神社・隅田川両岸総覧に描

かれた山谷堀・待乳山聖天等を見て、北

斎の墓がある誓教寺で解散した。

平成二十五年

一月四日(日) 史跡探訪・新年懇親会

～日本橋七福神めぐり～

人形町駅に集合。日本橋七福神を巡つ

た。

七月十三日(日) 史跡探訪
～落語発祥の地を巡る～

向島・墨堤散歩

講師

恵泉女子大学講師 瀧口 雅仁氏

二月十五日(日) 研究発表会

暑い日の午後、区役所から墨堤、向

島近辺を歩き、三围神社で解散。落語の

舞台となつた場所や江戸落語中興の基と

なつた秋葉神社等を案内していただいた。

○電線のある風景

すみだ史談会会長 小木曾 清三

すみだ史談 第四十五号

平成二十七年四月 発行

墨田区吾妻橋一一二十三一一二十一
五六〇八一六三一〇

演題「向島の三隠居」

松の隠居を中心として

向島は江戸風流人のあこがれであった。
絢爛より風雅を求めて隠居所が多くあつたとのこと。松・菊・梅の三隠居について、場所を推定し、住んでいた人達の話ををしていただいた。

★冥福をお祈りします。

西山 幸一郎様
太田 三十雄様

★新入会員

寺内 照喜様
墨田区東駒形
清水 英長様
墨田区文花
増田 進様
墨田区八広
畠 知里様
墨田区八広
佐藤 八郎様
墨田区東向島
木村たけつか様
墨田区吾妻橋

よろしく御願いします。

編集後記

二月十五日佐藤篤氏による研究発表

『特別区による自治権拡充運動の歴史と「大阪都」構想』がありました。政治に無頓着な小生にとつて快適なカンフル剤になりました。

本会も高齢化が進み、退会者が増えてきました。会の存続のため新入会員を増やしていきたいものです。
会員の皆様、一年間ありがとうございました。○特別区による自治権拡充運動の歴史と
「大阪都」構想

すみだ史談会 会員 佐藤 篤

生涯学習センター視聴覚室

九月二十一日(日) 文化講演会

日本橋七福神は他所とは異なり、す

べて神社で構成され、しかも日本で一

番巡拝が短時間でできると云う特長を

もつているようです。隅田川七福神と

大きな違いは各神社の敷地が狭い、境

内が無いことです。

★会員訃報

発行人 小木曾 清三